

# 宮町遺跡第 28 次発掘調査現地説明会資料

日 時 平成 12 年 11 月 23 日(木曜日)

1. 調査面積 1,500 m<sup>2</sup> (第 1 トレンチ 1,000 m<sup>2</sup>・第 2 トレンチ 500 m<sup>2</sup>)
2. 調査期間 平成 12 年 4 月 19 日～平成 13 年 1 月末(予定)
3. 調査主体 信楽町教育委員会 教育長 藤井 克宏
4. 調査指導 紫香楽宮跡調査委員会  
委員長 小笠原 好彦 滋賀大学教育学部教授(考古学)  
副委員長 櫻井 敏雄 近畿大学理工学部教授(建築学)  
" 栄原 永遠男 大阪市立大学文学部教授(古代史)  
委員 高橋 誠一 関西大学文学部教授(歴史地理学)  
" 黒崎 直 奈良国立文化財研究所  
飛鳥藤原宮跡調査部長(考古学)
5. 調査担当 信楽町教育委員会教育委員会 生涯学習課  
課長 奥田 利明  
課長補佐 森島 靖雄  
文化財係長 鈴木 良章  
文化財技師 高橋 加奈子(調査担当)

## 6. 調査位置

調査地周辺は、宮町盆地のほぼ中央に位置し、足利健亮前委員長がほ場整備前の旧地形や地割りから中心建物があった可能性を指摘されていた地域になります。

また、奈良時代の遺構配置では、区画溝と推定している西大溝(SD22113)から約 120～130m東側にあたり、遺構群の西半中央にあたります。

主な検出遺構 奈良時代 掘立柱建物跡 1 棟(SB28193)、谷(SV13258)

平安～中世 廃棄土壌(SD28181)、土壌墓 2 基(SX28172・28244)

## 7. 調査概要

SB28193 ... 第 1 トレンチ北端から第 2 トレンチで確認した大型の掘立柱建物です。

建物の規模が桁行 22 間以上(91.5m)×梁行 4 間(11.8m)の長大な建物跡と考えられます。現在南端を確認中で、地形などからみると桁行 23 間(約 94.5m)あったことが想定されます。

建築様式から考えると建物の東と西、さらに北の三面に庇が付いており、格の高いものと想定されますが、南北に長いことから中心的建物ではなく、中枢部を構成する脇殿的性格をもつものと想定され、周辺の地形からこの建物は西側に配置された「西脇殿」とみなされます。

この建物の柱の掘形は一辺約 1.2～1.5m、柱の痕跡は直径約 30cm 前後をはかり、西入側柱列の北第 2(身舎の西北隅)と東入側柱列の北第 4 に柱根が残っていました。SV13258 ... 第 1 トレンチ北端で検出した浅い谷です。ほ場整備以前は「コモリ川」がありました。下層から奈良時代の遺物が出土し、遺物にはローリングをうけた痕跡がほとんどありません。

出土状況や周辺での調査から、13 次調査で検出した SV13258 の南側延長と考えられ、幅 40～45mほどある浅い谷を埋め立てたものと考えられます。(北岸は 16 次調査のトレンチで確認しています。)

## 8. 類似の建物

今回見つかった建物を他の宮殿遺跡の建物と比較すると、平城宮の西方北半部に置かれた「西池宮」の脇殿の大きさ(桁行 87.6m×梁行 11.9mの二面庇建物)が規模的に近いものです。(平城宮の馬寮東方に配置された建物 SB18000)

また、平城宮第 1 次朝堂院の第 2 堂(桁行 92.4m×梁行 17.6mの二面庇建物)や第 2 次朝堂院下層の第四堂(桁行 8.9m×梁行 56.6mの庇付建物)も比較的近いものと考えられます。

## 9. 建物の性格

紫香楽宮は、天平 15～17 年(742～745)の短期間に営まれた宮であり、その実態はまだ明らかではありませんが、今回の建物の検出とこれまでの調査によって以下のようなことが考えられます。

今回確認した建物の規模は、他の宮殿遺跡ではいずれも宮の中枢部を構成する建物と同規模であり、紫香楽宮の朝堂的性格をもつ脇殿であったと考えられます。

また、調査地は遺跡のほぼ中央に位置し、周辺には方形の大きな区画が認められることやこれまでの調査で確認した建物や塀の方位や位置も合致するため、今回の調査地が紫香楽宮の中心であったという説を補強しています。

今回、桁行 90m以上もある長大な建物が確認されたことで、紫香楽宮の中心が宮町地区にあったと確定することができます。

紫香楽宮の宮町地区に重要な国家の儀式などを行う朝堂的性格のものがあったことが判明しました。

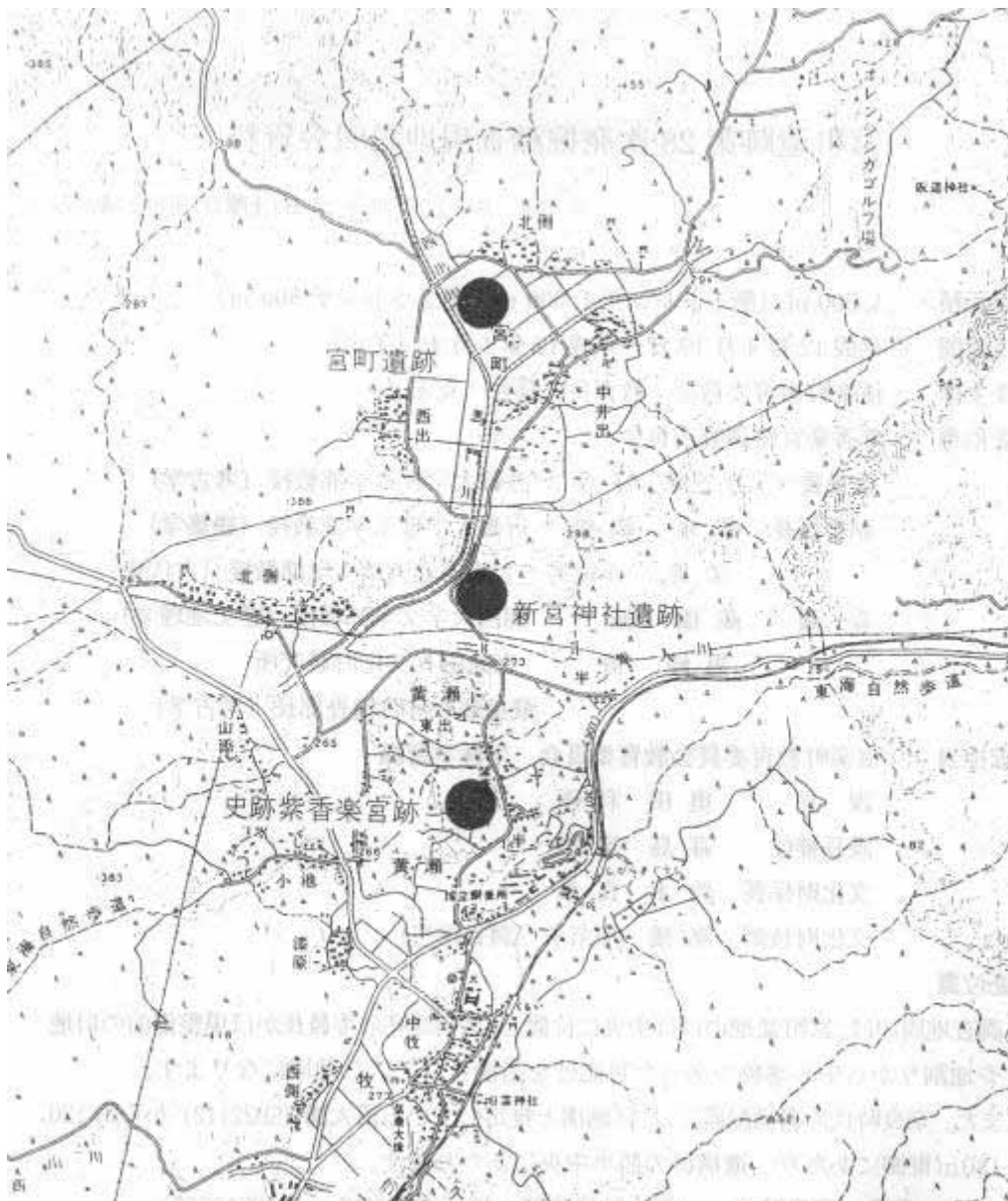
建物の大きさや配置は、平城宮や難波宮の中枢部を構成する朝堂院の構成とは異なりますが、国府の政庁を構成する脇殿の建物よりも格段に大きく、離宮から発展した紫香楽宮では、朝堂的性格の建物配置を平城宮の「西池宮」と類似した建物配置にした可能性があります。

調査地周辺は、方形に畦畔の残る区画として注目されていた場所で遺跡のほぼ中央にあたります。

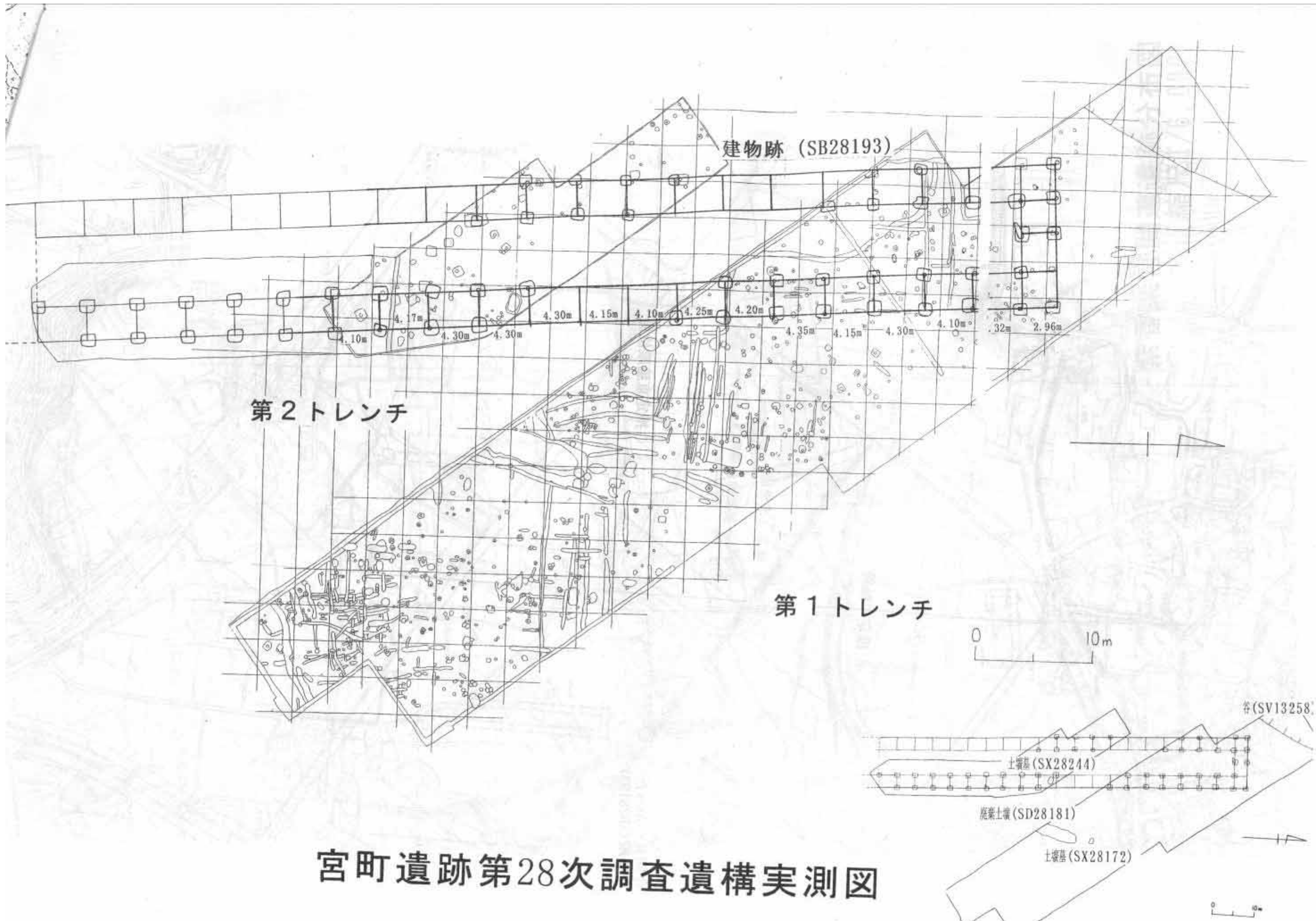
さらに SB28193 の建物の中軸線から東側に 180～185 尺(約 53.3～54.8m)離れた

場所に、ほ場整備前の水田畦畔が南北に縦貫していることなどから、建物の東側に紫香楽宮の中軸線がおかれていた可能性が強いといえます。

以上のように、さらに周辺での調査が必要ですが、紫香楽宮の中心を構成したとみなされる建物が検出されたことで今後紫香楽宮の構造の解明が急速に進むものと考えています。



調査位置図(S=1/25000)



宮町遺跡第28次調査遺構実測図